

和気藹々

令和8年度 朝礼 (4/27) 校長の話

おはようございます。

今日の四字熟語は「和気藹々」です。「和気」とは和やかな雰囲気のことを言い、「藹々」とは打ち解けて穏やかな雰囲気のことを言います。つまり、そこにいる誰もが、ニコニコと笑顔でいるような、居心地の良い雰囲気の中にいる状態を指します。

始業式・入学式からそろそろ一ヶ月経とうとしていますが、皆さんのクラスは和気藹々な雰囲気でしょうか。楽しそうな笑い声が聞こえるでしょうか。ときどき、校長先生が廊下を見回っていると、ドッと笑い声があふれ出すクラスがあって、私も楽しい気分になります。

しかし、ここで注意してほしいのは、ただ笑い声がたくさんあるということが和気藹々ではないということです。その笑い声の本質は何かということに注意を払う必要があります。

例えば、誰かが誰かをいじったり、からかったりしたときも笑い声が起こります。いじられたり、からかわれたりした人は、恥ずかしさを隠すために「何でもない」という顔をして一緒に気笑うかもしれません。それを見ている周りの人も、この人が笑っているなら大丈夫だと一緒に笑ってしまうかもしれません。しかし、それは本当でしょうか。

誰だって尊厳を傷つけられるようないじりやからかいがあれば傷つくのは当然です。叩かれれば肌に痣が残りますね。それは外から見て、誰もがわかる傷です。しかし、心の傷は誰の目にも見えません。だから、その傷は目で見てはいけないのです。心で見てあげるのです。大丈夫そうに見えても、傷ついているかもわからない。それは周りで見ている人の、想像力を試される場面です。

みんなが居心地の良い環境を作るには、人の心の痛みが分かる人になることが第一条件です。そして、もし人が傷つくような空気が生まれようとしたら、気づいたその時にやめさせる勇気をもつことが大事です。この八中生の中で、傷つく人が一人でもあってはいけません。先生たちも全員、いじめを絶対に許さない覚悟をもって皆さんを見守っています。

本当の意味での和気藹々を作るには、そのような一人一人の強い、正義と優しさに満ちた心構えが大切です。どうでしょう、皆さんにはそのように、人の心を思いやる想像力や、誰かが誰かを傷つけることを許さない勇気をもつことができるでしょうか。いや、できると信じています。

八中は居心地の良い学校を目指しています。心理的安全性のある学校を目指しています。そのためにいつも教室の中は和気藹々のムード溢れて欲しいと願っています。ですから、自分のいる空間が和気藹々になっているかどうか、レーダーを働かせてみてください。そして、自分で出来ることを考え、実行してください。一人一人の努力が良い学校を作っていきます。1年は始まったばかり。これからの皆さんの成長に期待しています。先生の話は以上です。